岐阜県下の高等学校家庭科における保育体験学習の実施状況に関する調査報告（3）

―家庭科以外の教諭の「保育体験学習」に関する意識調査―

A Survey of “Experience of child-care Program” of home economics in High schools in Gifu Prefecture (3)

下野恵理子※・今村　光章※※
SHIMONO Eriko and IMAMURA Mitsuyuki

※岐阜大学大学院教育学研究科（不破高等学校）
※※岐阜大学教育学部家政教育講座

第１節　調査の目的

高等学校家庭科における保育体験学習の実践の現場においては，授業の時間割の変更や引率をお願いするなど，家庭科以外の他教科の教諭の理解と協力を得なければならない場合が多い。

そこで，本稿では，第１報，第２報に引き続いて，岐阜県の高等学校における家庭科以外の教諭の「保育体験学習」に関する意識を調査し，家庭科における保育体験実習の意義が，どれほど家庭科以外の教諭のなかで認められているのか。どのようにして今後の協力体制を構築することができるのかについて考察してみたい。

繰り返すようだが，すでに，第１報では，岐阜県下の高等学校家庭科における保育体験学習の実施状況に関する調査報告を行い，保育体験学習の状況を把握した。また，本論文の前報(2）では，家庭科教諭の「保育体験学習」に関する意識調査を行った。本稿では家庭科教諭以外の教諭を対象とする調査報告を行いたい。冒頭にも述べたように，保育体験学習においては，現実的な問題として，家庭科以外の教諭の理解と協力が不可欠であるからである。

こうした問題意識から，岐阜県西濃地区の全日制課程普通科高校・全日制専門科高校・ぎふ総合型選択制高校・全日制単位制普通科高校の計4校に在籍する家庭科教諭以外の教諭を対象にアンケート調査を実施した。

第２節　岐阜県高等学校の家庭科以外の教諭へのアンケート調査の概要

調査対象者を選定するにあたり，岐阜県西濃地区の全日制課程普通科高校・全日制専門科高校・ぎふ総合型選択制高校・全日制単位制普通科高校の計４校を選んだ。地区を限定するほうが，比較的調査結果がそろうと考えられたため岐阜県の西濃地区の公立高等学校4校の家庭科以外の教諭188名（非常勤講師を含まず）に対象者を絞った。

調査対象の選定が恣意的で，代表値ではないという反論はあるだろう。だが，他教科の教諭の保育体験学習の意識調査に関する先行研究は皆無であり，おおまかな意識を調査する予備的段階にあるため，こうした内容である程度理解できると判断した。より詳細な調査は今後の課題としたい。

調査方法については，2011年７月初旬に調査用紙を学校長や家庭科主任などに手渡しで配布，回収を依頼した。188名中142名が回答し，回収率は75.5 %であった。

質問項目は，2010年度に関して，無記名選択肢方式と自由記述方式で，以下の項目について質問した。なお，紙数の都合で，実際のアンケート用紙を掲載することは避ける。

調査項目は，以下の通りである。

・属性（年齢・性別・教科）

・勤務校における保育体験学習の位置づけ
・実施する意義
・時間割変更や引率に協力する意識の有無
・高校時代に保育体験学習に参加する機会があるとよかったか，その理由について（自由記述方式）

第３節　調査結果

以下に調査結果を示すが，属性については回答と有意な関係が見当たらないため割愛し，保育体験学習に関する意識調査の部分のみを記載する。なお，質問紙を掲載しないため，問いを表の前に併記した。

問１.「貴校では保育体験学習を実施していますか」という問いに対する回答

表１．保育体験学習の認知度

（数字は，割合を除いて件数）

項　目	A高校	B高校	C高校	D高校	合　計	割合（%）
実施している	28	40	26	19	113	80
実施していない	1	1	0	0	2	1
分からない	12	4	4	6	26	18
未記入	0	1	0	0	1	1
合　計	41	46	30	25	142	100

問２.「実施している場合，その位置づけは何ですか」（複数回答可）という問いに対する回答

表２．保育体験学習の位置づけ

（数字は，割合を除いて件数。複数回答があるため，回答者数を件数が回る。以下の表でも同様である。）

項　目	A高校	B高校	C高校	D高校	合　計	割合（%）
家　庭　科	24	35	21	17	97	63
職 業 体 験	9	6	1	2	18	12
家庭クラブ	2	1	0	0	3	2
そ　の　他	0	0	0	0	0	0
分からない	1	2	4	1	8	5
未　記　入	1	4	4	3	12	8
無　　効	12	0	0	3	15	10
合　計	49	48	30	26	153	100

問３.「あなたは，保育体験学習を実施することの意義についてどのように考えますか？」(複数回答あり）という問いに対する回答

表３．保育体験学習を実施する意義

項　目	A高校	B高校	C高校	D高校	合　計	割合（%）
親になる準備にぜひとも必要	12	18	6	7	43	19
親になる準備にどちらかといえば必要	23	14	5	7	49	21
保育系進路の生徒のためぜひとも必要	5	5	15	11	36	40
保育系進路の生徒のためどちらかといえば必要	2	7	5	2	16	9
必要ない	1	2	0	0	3	1
未記入	0	2	0	0	2	10
合　計	43	48	31	27	149	100

問４.「あなたは貴校で保育体験学習を実施する生徒はどのような形が望ましいと思いますか」という問いに対する回答

表４．保育体験学習を実施する生徒の望ましい形

項　目	A高校	B高校	C高校	D高校	合　計	割合（%）
全校生徒	21	28	6	5	60	41
保育系の進路の生徒	4	6	19	8	37	25
希 望 者	16	12	7	11	46	32
そ の 他	1	0	0	2	3	2
合　計	42	46	32	26	146	100

問５.「あなたは，貴校で保育体験学習を実施する最も望ましい時間・方法は何だと思いますか」（複数回答あり）という問いに対する回答

表５．保育体験学習を実施する望ましい時間・方法

項　目	A高校	B高校	C高校	D高校	合　計	割合（%）
家庭科の授業	15	29	17	12	73	49
職 業 体 験	17	12	8	12	49	33
家庭クラブ	0	1	0	0	1	1
そ　の　他	2	2	2	3	9	6
分からない	9	4	4	0	17	11
合　計	43	48	31	27	149	100

問６.「あなたは貴校で保育体験学習を家庭科の授業で実施する場合，時間割変更の協力についてどのように考えますか」という問いに対する回答

表６．保育体験学習に伴う時間割変更の協力

項　目	A高校	B高校	C高校	D高校	合　計	割合（%）
できる限り協力する	26	35	28	20	109	77
状況によって協力してもよい	13	7	2	4	26	18
あまり気が進まない	0	2	0	1	3	2
協力する気はない	0	1	0	0	1	1
未　記　入	2	1	0	0	3	2
合　計	41	46	30	25	142	100

問７.「あなたは貴校で保育体験学習を家庭科の授業で実施する場合，引率の協力についてどのように考えますか」 という問いに対する回答

表７．保育体験学習に伴う引率の協力

項　目	A高校	B高校	C高校	D高校	合　計	割合（%）
できる限り協力する	9	24	9	13	55	39
状況によって協力してもよい	26	13	16	9	64	45
あまり気が進まない	5	5	4	2	16	11
協力する気はない	0	3	1	1	5	4
未　記　入	1	1	0	0	2	1
合　計	41	46	30	25	142	100

問８.「あなたの高校時代，保育体験学習に参加する機会がありましたか」という問いに対する回答

表８．保育体験学習に参加する機会の有無

項　目	A高校	B高校	C高校	D高校	合　計	割合（%）
機会があった	2	3	2	0	7	5
機会がなかった	35	39	27	24	125	88
よく覚えていない	4	4	1	1	10	7
合　計	41	46	30	25	142	100

問９.「高校時代，保育体験学習に参加する機会があるとよかったと思いますか」という問いに対する回答

表９．保育体験学習に参加する機会があるとよかったか

項　目	A高校	B高校	C高校	D高校	合　計	割合（%）
思　　う	21	34	15	17	87	61
思わない	17	11	14	8	50	35
未 記 入	3	1	1	0	5	4
合　計	41	46	30	25	142	100

問９．理由（※理由の記述…83／142＝58.5％）

◎	→	保育体験学習の意義に関する意見
○	→	親の立場としての意見
◇	→	当時の環境には必要なかったという意見
△	→	保育体験学習に対する否定的な意見

①「思う」と回答した理由

●Ａ高校

・進路の幅が広がるから。・将来に役立つ。・経験は大事だから。・他でこういう経験は，なかなかできないから。・幼児に対する見方，対応の仕方が，機会がない場合とは変わったと思うから。・自分の子が実習に参加して，楽しそうに語ってくれたから。○親になった時に，少しでも経験があるとわかるから。・命の重みを体験しておけば，安易に産んで虐待することは，減るのではないか。（身近にあったわけではなく一般論として）・いろいろな体験（とくに学校外での団体との関わり）を高校生は持つべきだと思う。・より広く社会を知る1つの契機となるから。・実際に体験することなので，予め実習を行うことで慌てずに対応できる。○核家族で幼児や老人に接する機会がほとんどないまま大人になったので，世間知らずだったと思う。学習の機会はあったほうがいいと思うから。・将来のことを考えたらあった方がよかったと思う。・視野を広げたり，人間的な成長をしたりとよいことが多いので，あるとよかったと思う。○親になり，保育の大変さが分かった。父としての関わり方を考えさせるためには必要と考える。

●Ｂ高校

・普段の高校生活で体験できないことをさせる機会があってよい。子どもの成長を目で見て心で感じる機会になると思う。・短い時間でも小さい子どもと接することは，色々な意味でよいことだと思う。・子どもと関わる中で学ぶことは多いと思ったから。子どもが好きだから。・やはり将来子どもを育てる以上，経験しておいた方がよいと思う。・たとえ１日だけでも，経験しておくと役立つと思う。・何事も勉強になると思う。・小さい子どもが身近にいなかったため。・キャリア教育の一環として意義がある。・高校生の自分が幼児と関わり，保育というものを学ぶ機会があってもよかった。・保育について考える機会を持つことができるから。○親になって初めて，乳児や未就園児と接し，本当に戸惑ったので。・知るべきだし，体験しておきたいと実感したから。・一人っ子が増えて，きょうだいで下の子の子守をしていないので，保育を家庭内で経験できなく，保育知識が少ないため。・小さな子どものことが，多少でも理解できる。・将来，ほとんどの人が親となり，また，そのような年代になった時に，子どもたちを扱うことになるから。・専門分野の知識が習得できるから。・子ども時代に親のありがたみが分かる。・保育に関する学問的知識が，きちんと身につくので。・違った環境で体験することは，自分にプラスになるので。・自分の成長も感じることができるだろうし，大人になる自覚が生まれると思う。また，親への感謝を感じることもできるから。

●Ｃ高校

・保育関係の進路を目指している生徒にとっては，将来を決める重要な実習になっていた。・親になるとき，役に立つので。◎20年以上経った今でも記憶に残っているというだけで，意義があるのではないでしょうか。・やはり体験してみないと分からないところがあるので。・１つの経験としてよいものだから。・実際，分かってから１年間では無理。事前に知識だけでも持っていると違うのではと思った。・新しい発見（気づき）や，経験値が高まるから。・実習がよかったかどうかの判断ができるから。体験したのとしていないのとでは大きな違いだと思う。◎子育てする資質が欠けていた。子育ては母親の役割と決めていた。機会があったらそうならなかった。（40代男性・体育・子ども２人）・将来のために良い機会になると思う。・希望制なら，進路選択の一手段としてあってもよかったと思う。

●D高校
・直接保育園に実習に行き体験できるので，進路を考える者，あるいは将来親になる者にとって，実習体験は貴重であると思う。・少子化の時代ではなかったが，将来のことを考えてみると，体験しておいた方が望ましいと考えるため。・経験のため。・少子化で小さい子どもと接する経験ができにくくなっているため。・保育関係の仕事に就かなくても，子育てに役立つ。・普段と異なる体験をすることで得られるものは大きい。とくに自分より弱い立場の者にどう接するのかを学ぶことができる。・進路決定の参考になったと思う。・キャリア教育として。・多少なりとも知識を持って育児に臨めたので。・社会に対する目が開かれると思うから。・少子化できょうだいも少ない中，小さい子どもと接する機会も少ない。進路を考えるにしても，保育（子育て）を経験するにもよい機会であると思う。・自分が今親となり，家庭のあり方や子どもの養育に関して，男女関係なく父親や母親，祖父母等，家族全員が協力しないといけないと感じるから。◎中学校時代に体験学習があったが，いまいち理解できずに終わってしまったため。もっと具体的に考え，行動できる年齢で受けた方が効果的だと思うから。・進路選択の幅が広がる可能性がある。・家庭教育，子育てにおいて，心の準備，覚悟ができる。・子どもと接する機会が昔は学校以外にもあったが，学習としてできればもっとよかったのではないか。

②「思わない」と回答した理由
●A高校
・少なくとも今の自分には必要がない。・とくに困ることはなかった。・当時は祖父母（父母）同居が多く，子どもが生まれても保育の手助けをしてもらえる環境が多かった。・ほんの少しだけの体験と実際は違っていたから。・時間的余裕がなかったから。・当時は興味がなかったので。◇以前，育児は女性が中心で行うものだと思い，実際に任せきりだった。最近は男性も育児に参加するものだという意識を持つようになった。・昔は年齢の異なる子どもが一緒に遊んでいたので，昔の状況であれば不要だと思う。・何とかなっている。何とかなっていく。

●B高校
・時代が違う。男子は技術を学んでいた時代なので，今さら昔のことをとやかく言っても仕方がない。・時代の要請によるものであり，当時は必要ない。△高等学校において，少なくともB高校の生徒には必要ない。もし，親になるためなどというなら，義務教育までにすべての生徒にすべきだ。高等教育にはそぐわない。しかし，職業に就くために本気の生徒だけが体験するのはよい。実際，小・中学校に実習に行っているはず。現状維持でよいだろう。

●C高校
◇現代とは環境が異なる。とくに必要性はなかったと思う。・中学で行っていたため，高校では必要性を感じなかった。・知識が必要ならいくらでも情報はある。実体験は自分の子でできるから。・幼児と関わる機会は他にもあり，とくに保育実習という形で必要性を感じないから。・保育に関心がない。
・なくても困らなかったから。内容次第では分からない。・考えになかった。・現実（受験など）とかけ離れすぎているので，実習内容によっては，興味がもてないかもしれないため。・意識の低い生徒が実習をしても，教育効果が上がらない。

●D高校
△高校生は保育に関することに興味を持たないと思う。・自分がその頃体験実習したいと思う気持ちはなく，そのような思いの時，体験の機会があるとよいと思う。

第4節　考察

問1の結果より，勤務校において，保育体験学習を実施しているかどうか分からないという回答が，どの学校にもみられ，合計約18%が分からないと回答している。これは，異動してきて1年目で，校内の状況を把握していないため，「分からない」と回答している場合が多いと考えられる。だが，それ以外に，他教科，とりわ

け家庭科で保育体験学習を行っていることへの関心が薄いということも挙げられよう。5人に１人が分からないと回答していることをどのように受け止めるかにつては微妙なところがあるが，それでも，大半の教諭は実施状況を把握していると考えられる。

問２の結果より，保育体験学習の位置づけについて，４校すべての学校において，家庭科の授業で実施しているのにも関わらず，「家庭科」と回答しているのは，全体で63％しかいない。これは，自分が保育体験学習の担当者でないため，位置づけについてあまり関心がないためではないかと考えられる。

問３の結果より，保育体験学習を実施することの意義について，全体では「保育系進路の生徒のためぜひとも必要」の割合が最も高く，40％を占めている。内訳を見ると，Ｃ高校が15名で最も多く，次いでＤ高校が7名，Ａ高校とＢ高校が５名ずつとなっている。Ｃ高校は家政系の専門科があり，保育系の進路を希望する生徒のための保育類型がある。その生徒が保育体験学習を行っているため，他校と比べて割合が高くなっていると考えられる。Ｄ高校は単位制高校で，１年生で全員「家庭基礎」を学習し，保育系進路の生徒や意識の高い生徒等が２～３年生で「発達と保育」を選択し，その生徒のみ保育体験学習を実施するため，「保育系進路の生徒のため」の割合が高くなっていると考えられる。

問４の結果より，全体では，「全校生徒」の割合が41％と最も高い。内訳をみると，Ａ高校が21名，Ｂ高校が28名で，他の選択肢より多いが，Ｃ高校は「保育系の進路の生徒」が19名で最も多く，Ｄ高校は「希望者」が11名で最も多くなっている。これは，Ａ高校とＢ高校は，必修科目である「家庭基礎」で保育体験学習を実施しており，全校生徒で実施する体制ができていると考えられる。それに比べ，Ｃ高校は，保育類型のみの授業の中で，Ｄ高校は選択科目である「発達と保育」でのみ実施しているため，「全校生徒」で実施するより「保育系の進路の生徒」や「希望者」で実施する形が望ましいという考えが多いと考えられる。

問５の結果より，保育体験学習を実施する最も望ましい時間と方法は，全体では，「家庭科の授業」が49％で最も多く，次いで「職業体験」が32.9％で多くなっている。内訳をみると，Ａ高校は「職業体験」が17名で，「家庭科の授業」の15名よりわずかに多くなっている。これは，Ａ高校は進学校で，授業時間の確保のため，授業中より職業体験の時間に実施した方がよいと考える教諭が多いのではと考える。Ｂ高校とＣ高校は「家庭科の授業」の方が「職業体験」より２倍以上人数が多くなっている。これは，「家庭科の授業」で実施する体制が出来上がっているためではないかと推察する。Ｄ高校は「家庭科の授業」と「職業体験」がどちらも12名となっているが，現在どちらでも実施しているため意見が分かれたと考えられる。

問６の結果より，時間割変更の協力について，全体では「できる限り協力する」が76.8％と最も多く，次いで多い「状況によって協力してもよい」の18.3％と併せると95.1％となり，大部分の教諭が，時間割変更に協力的であると考えられる。

問７の結果より，引率の協力について，全体では「状況によって協力してもよい」が45.1％と最も多く，次いで多い「できる限り協力する」の38.7％と併せると83.8％となり，時間割変更ほどではないが，家庭科以外の教諭で8割もの教諭が引率について協力してもよいと考えているといえる。

問８の結果より，高校時代，保育体験学習に参加する機会があったかについては，「機会がなかった」が最も多く，88％を占めている。これは，高校で保育体験学習を実施するようになったのが，ここ10数年の間であるため，参加する機会があった人は少ないと考えられる。

問９の結果より，保育体験学習に参加する機会があるとよかったと思うかについては，全体で「思う」が61.3％と「思わない」の35.2％より割合が高くなっている。「思う」と回答した理由を見ると，◎印の「20年経った今でも記憶に残っているというだけで，意義があるのではないか」や「子育てする資質が欠けていた。子育ては母親の役割と決めていた。機会があった

らそうならなかった。」,「中学校時代に体験学習があったが，いまいち理解できずに終わってしまったため。もっと具体的に考え，行動できる年齢で受けた方が効果的だと思う。」等，高校で保育体験学習を実施する意義について触れた意見が見られた。また，○印の「自分の子が実習に参加して，楽しそうに語ってくれたから」や「親になり，保育の大変さが分かった。父としての関わり方を考えるために必要である」,「親になって初めて，乳児や未就学園児と接し，本当に戸惑ったので」等，親としての立場での意見が多く見られた。「思わない」と回答した理由には，◇印の「以前，育児は女性が中心で行うものだと思い，実際に任せきりだった。最近は男性も育児に参加するものだという意識を持つようになった。」等，当時は保育に興味がなかったため，機会が必要なかったという意見や,「幼児と関わる機会は他にもあり，とくに保育実習という形で必要性を感じないから」等，当時の環境では必要ないという意見が多く見られた。△印の「高等学校において，少なくともＢ高校の生徒には必要ない。もし，親になるためなどというなら，義務教育までにすべての生徒にすべきだ。しかし，職業に就くために本気の生徒だけが体験するのはよい。」という意見や,「高校生は保育に関することに興味を持たないと思う」等，高校での全員での保育体験学習実施に対して，否定的な考えも多少ではあるが見られた。

以上より，他教科の教諭の中には，保育体験学習実施に対して，否定的な意見を持つ者も多少はいるものの，大部分の教諭は保育体験学習の意義を理解するなど肯定的な意見を持つ者が多く，保育体験学習に伴う時間割変更や引率に協力的な者が多いことが分かった。しかし，調査した４校のうち，実際に他教科に引率を依頼している学校は１校のみであることから，現実には協力をお願いしにくい状況にあるといえる。また，今回の調査対象校は，いずれも保育体験学習を実施している学校であったため，実施していない学校で調査をすると，また違ったデータが得られるのではないかと推察される。

むすびにかえて

冒頭にも述べたように，実際に保育体験学習を行うとなると，他教科の教諭の理解と協力が欠かせない。しかしながら，時間割変更に関しては，おおむね快く応じてはくれるものの，引率となるとなかなか難しい状況もあることがわかる。

クラス数が少なく，生徒の問題行動も少ないと予想される場合には，引率者は少なくても実施できるかもしれないが，数クラスが一度に複数の受け入れ先に出かける場合には，家庭科の教諭だけではなく他教科の教諭に協力を仰がねばならない場合もでてくるであろう。実際に，家庭基礎などでは，８クラスから10クラス程度の規模の高校もあり，そうした高等学校では，生徒たちは一度に複数の受け入れ先にでかける場合もある。そういった場合に，どこまで学校内での協力を求められるかによって，保育体験学習の実現の可能性の幅が決まるといってもいいだろう。

すでに中学校では，幼児とのふれあい体験が必修化されており，子どもたちは保育体験学習の機会そのものは保障されている。しかしながら，よりよい保護者となり，子どもをより幸福に育てているためには，さらなる学習や工夫が求められる。そうした意味で，高等学校の保育体験学習がより充実することを望みたい。